

## 交通事故を防ぐために

岡崎市立小豆坂小学校 6年 村瀬 芭瑠

私は、これまで交通事故にあったことがなく、小さい頃は交通事故を他人事のように感じていました。しかし、毎年のように、登下校中などに起きている小中学生の交通事故のニュースを耳にし、交通事故は誰にでも起こりうることで、決して他人事ではないと感じるようになりました。交通事故にあってしまうと、けがをするだけでなく、最悪の場合は命を落としてしまうこともあります。

そこで、私は、交通事故にあわないためにはどうしたらよいかを考えました。いちばん大切なことは、交通ルールを守ることだと思います。みんなが交通ルールを守れば、事故は少なくなります。

例えば、近くに横断歩道があるにもかかわらず、急いでいるとか、めんどろくさいからと、横断歩道がないところ渡り、事故にあってしまうことがあります。そのため、少し遠回りになっても横断歩道を渡ることが大切だと思います。

ただ、自分がいくら気を付けていても、交通事故にあってしまうことがあります。交通死亡事故の状況として最も多いのは、横断中の事故とのことです。本来、横断歩道は歩行者が安全に横断するための場所ですが、運転手が歩行者に気付かずに通過することもあります。

横断歩道だからと油断せず、左右の状況をよく確認して渡ることで、交通事故が少しでも防げるようになると思います。

私たちの学校では、毎朝、保護者の方や先生方の簾当番、スクールガードさんや近くにある岡崎工科高校の有志の方が、横断歩道などで私たちの登校の安全を見守ってくれています。その人たちに感謝の気持ちが伝わるあいさつができるようにしていきたいです。

私は交通事故について調べてみて、改めて交通事故はとても怖いものだと思います。交通事故にあってしまうと、自分だけでなく、周りの人まで悲しい思いをしてしまうからです。これからも、交通ルールを守ることはもちろん、常に周囲の状況をよく見て、交通事故にあわないように気を付けて生活していきたいです。

